

檜の会

第47号

平成28年
(2016)
7月25日
春・夏
合併号発行人 NPO法人檜の会事務局
〒六〇五一〇八二三京都市東山区安井毘沙門町三三
TEL ○七五一五五一一三六五三
FAX ○七五一三三〇一六三九企画・編集 檜の会会報編集部
印刷 (有) 章美プリント
<http://hinokinokai.or.jp/>

暑中お見舞申し上げます

NPO法人檜の会理事長 安田紀美子

21世紀始まって以来の厳しい気象状況となり今年も又酷暑の夏となりましたが会員の皆様方には恙なくお過ごしの事と拝察申し上げます。

当会も春から夏に掛けまして、美術工芸展・芸能フォーラム等の催事が無事に開催出来ました事を、心より厚く御礼申し上げます。又更なる一步を踏みしめ皆様方と共に、この会の発展の為精進致したい所存でございます。

此の度、ご縁が御座いまして、南丹市日吉町の殿田小学校に参りました。

昨年の夏休みに日吉町で親子の芸能体験を致しました所、親子の触れ合いがとても楽しくて好評でした。今年も是非とお声がかかり、先ずは小学校で子供達に伝統芸能を体験する機会を作りました。小学校1、2年生の子供たちの目は好奇心で一杯です。五感で感じてくれているのが良く分かれます。何十年前から子供の教育に伝統文化・芸能をと言い続けて参りました事も現実に向かいつつある様で、嬉しく思っております。

今後はコンピューターという人工頭脳が支配する時代がやつて来ますが、



殿田小学校にて

人間が本来持つ感性を幼少の時から磨き育てる事が非常に大切になります。このNPO法人「檜の会」も次世代にまで受け継いで頂く事を目標に致しまして、今後も活動を重ねて参ります。会員の皆様には益々ご活躍を祈念し、これからも当会発展の為、ご支援ご指導を賜ります様お願い申し上げます。

恒例の『伝統文化の精華』展は京都国際交流会館の1階会議室で開かれた。正面の入口を入って大きなロビーの左奥の静かな会議室。

総括 安田紀美子（日本舞踊家）

企画構成 伊砂 正幸（染色家）

会場レイアウト 中田 節（舞台美術家）

と檜の会の中核部の方々である。

檜の会の目指す日本の伝統文化、京都不是の芸術の伝承・啓発・研修。それを次世代に継げようという理想の諸事業。中でも本展は、その活動を市民に訴えようとするものである。

今年も出展者の熱い思想に満ちた制作

が展観された。

入口を入って《京都製天鷲絨アケセサリード》前号（第46号）で奥村澄子専務理事が紹介されている「有線天鷲絨」の藤本義人社長のご出展である。その可愛いアクリルはどれをとっても誰もが付けてみたいものばかりである。

次に島田耕園氏の《陶胎胡粉「輝く」》色も形も極度に優しいが生命力が、それこそ輝いている。

10周年記念展『伝統文化の精華』 芸術総合展

NPO法人檜の会理事 田中重太郎



友情出展、長澤宗春氏《般若》力強い伸びのある顔面が印象的。

続いて伊砂正幸氏の「天ノ川」大作で一つひとつ星が宇宙に思いを馳せさせます。

淡、墨の黒と力強い筆遣いに圧倒されます。

近藤富士金氏の「羽二重箔黄金額」「金銀箔新富士額」と一堂で観せていただけない制作の数々を堪能させていただきました。

片山雅美氏「赤瓶」「耀彩瓶」は落ちついた中に陶芸の粋を表現されているようを感じました。和楽七代当主《三番叟》目出度さ凝縮した落ちついた容姿と表情に魅せられました。

会場の左奥に特設されたステージでは、野中久美子氏の能管の演奏があり



品に包まれて和の調べを拝聴する贅沢なひとときを味あわせていただきました。このような貴重なご出展、ご出演下さいました諸先生の「心と技」を到底理解させていただくことは出来ない私ではございますが会報の編集スタッフとしての責を果たさせていただくための報告とお赦し下さいませ。



藤田裕之副市長を囲んで

臣秀吉の正室の寧々の菩提寺で有名な東山高台寺で伝統芸能のフォーラムが開催された。このままほっておけば日本の伝統芸能は滅びてしまうのではないか、と思っているのは私だけではない。だからこそこのような催し物には意味がある。林宗一郎氏は以前に能と生け花のコラボレーションを試みているが、このような仕方での新しいジャンルを作ることが重要なのではないか。もちろん伝統を受け継ぎ伝統を継承するのは基本の「き」であるのは言うまでもない。いま世界では、イスラムの教えを強調するあまり自国に長く伝わっている伝統的な文化財を破壊する輩もいる。イスラム教は極端な一神教であるが、私は、日本の神道と仏教の伝統をもつと評価すべきだと思っている。これらはある種の多神教であり、ギリシャ・ローマの多神教と



NPO法人檜の会副理事長 小川 倪

高台寺の伝統芸能フォーラム

日時：平成28年6月4日(土)
午後2時～4時30分
会場：東山高台寺 方丈の間

仁寺派に属している。高台寺聖禪寺が正しいのである。

「豊臣秀吉の没後、その菩提を弔うため秀吉夫人の北政所（ねね、出家して高台院湖月尼と号す）が慶長11（一六〇六）年開創した寺であり寛永元（一六二四）年7月建仁寺の三江和尚を開山としてむかえた。造営に際して徳川家康は当時の政治的配慮から多大の財政的援助を行つたので寺觀は壯麗をきわめた」と、高台寺案内パンフレットに記されている。

檜の会では過去に何回か本日客人（パネラー）としてご登場下さる高台寺執事長後藤曲生上人の自坊円徳院で「伝統文化の精華展」を開催し、お世話になっている。

今回フォーラムも過去の開催に倣つて実演・講演・パネル討論というパターンで進められた。

後援 京都府・京都市
企画構成 林宗一郎
舞台構成／総合司会 中田 節
が本日の陣容である。

安田紀美子（花柳双喜美）理事長は開演挨拶で、過去2回京大稻盛ホールで開催された本フォーラムが今回このような伝統文化の勉強に相応しい由緒ある場所

の共感から欧米には「生きている宗教」としての日本の神道や仏教への評価が高い。

NPO法人檜の会主催、第3回文化講演会（平成28年）芸能フォーラム『伝統芸能の過去・現在・未来』は6月4日（土）午後2時～4時30分。京都東山高台寺方丈の間で開催された。

高台寺は鷺峰山高台寺と称し臨済宗建



林宗一郎師

森田玲先生

後藤曲生上人



安田雄司先生

貫成人先生

小川侃先生

をご提供いただいたことへのお礼と、若いリーダーの思いが充分發揮出来る機会になればと期待を示された。

続いて能楽組曲として、林宗一郎氏の「能」と、森田玲氏の「篠笛」の共演が繰り展げられ、生命の溢れる素晴らしい「舞」が参加者を魅了した。

ここで25分の休憩をとりセッティング。この間希望者は方丈の庭園鑑賞させて貰った。

続いてパネル討論。正面に向かって右のテーブルに哲学者小川侃先生、舞踊研究家貫成人先生、羽織袴の医師安田雄司先生。左のテーブルには後藤曲生上人、森田玲先生。少し離れて司会林宗一郎師が並ばれた。

パネル討論の司会は林宗一郎師がご担当。

「伝統工芸・古典芸能は必要なのか」というテーマを軸に話を展開。「能楽組曲解説」のレジメを参加者に用意していただき詳しい説明があつた。

『神歌』『高砂』『羽衣』『伊勢太神樂の笛』『岸和田地車囃子の笛』『月』(森田玲作曲)『カミあそび』等々。

各先生方から、神振は獻納、神の存在をたてまつり、神と人々のためのたのしみ、春を迎える心、み光を仰ぎ、安心のための芸能、歓び、安らぎと神と人との関係について識見を承った。(J.T)

「檜の会」会報原稿募集

会員の皆様からのお知らせなどを積極的に掲載いたします。催事の予定や参加行事、消息・ご意見など掲載したい記事を編集部までお寄せ下さい。

(編集部)

芸能フォーラム感想

ご参加下さいました方が、貴重な感想をお寄せ下さいました。

東近江市 高木 新一郎

昨日は芸能フォーラム、すばらしい内容でした。林宗一郎氏能楽と篠笛の「コラボ」昨年につづき深みを感じました。加えて演じられた方の「はなし」能楽にかける思い、正に伝統文化であります。続いて著名な先生のパネル討論。高台寺執事長の「ビジネスモデルの転換」流れに応じた進化。印象に残りました。その後ルノワール展を観てきました。お礼まで。(滋賀銀行 元取締役)

NPO法人檜の会(東京)新井 淑子

高台寺本堂での公演に討論と素晴らしい時間を有難う御座いました。

【平成28年度会員総会】

会場：総会 エルイン京都1階会議室
懇親会 全「舞」

本年度の総会は標記の通り開催された。安田理事長の挨拶に続いて田中重太郎理事を議長に選出、議事に入りました。

(1)平成27年度事業報告承認について
(2)平成27年度事業活動計画書・貸借対照表・財産目録の承認について
監査報告――

6月初旬、新緑の美しい京都東山高台寺にてNPO法人檜の会主催の芸能フォーラム「伝統芸能の過去・現在・未来」についての公演とパネル討論が京都東山の高台寺にて開催され、梅雨のお湿りで程よく冷んやりした空気をまとひながら、竹林に囲まれた境内へ期待に胸躍らせ階段を登りました。

先に頂いたプログラムを拝見し、何やら新たな体験ができる気配を感じていたのです。そしてそれは、想像や思考を目眩く引き立てる貴重な時間となりました。

公演は能楽師で観世流の若宗匠 林宗一郎氏による「能楽組曲」。そこへ玲月流篠笛奏者、森田玲氏の演奏、と謡のみの神歌に始まり、高砂、羽衣と良く知られた演目のハイライト、そこへ岸和田地

車囃子の笛と。先ず以って新たな試みでありながら、演目と曲調、舞いと違和感のない緊張と体内の血が踊り出す様な祭囃子の音色。

そうした体験後の討論のテーマは「未來に芸能は必要か!」と言う到底1時間では収まらない内容で、6名の素晴らしいパネリストの方々により討論されました。

結論は「芸能」 자체が人間コミュニケーションの基礎であり、なくなり様がないと言う事。日本は少数民族国家で来ました。その様な中でも恐らく固有の表現(伝統)を守りつつ、また新たな文化を取り入れながら息づいて行くのだろう、と強く感じる討論でした。

高台寺本堂での公演に討論と素晴らしい時間を有難う御座いました。

報告

◆【理事会】 H 28・4・28 (木) (第1回)	◆【協議会】 H 28・5・11 (水) (第2回)
◆【事業】(行事・催事) 新年の集い(親睦会)	◆【事業】(行事・催事) 新年の集い(親睦会)
日時・H 28・1・24 (日)	日時・H 28・1・24 (日)
会場・祇園・料理旅館「花楽」	会場・祇園・料理旅館「花楽」
余興・林宗一郎師謡曲「高砂」	余興・林宗一郎師謡曲「高砂」
◆第10回『伝統文化の精華』展 伝統文化芸術総合展、次世代への推進、 育成をめざす	◆第10回『伝統文化の精華』展 伝統文化芸術総合展、次世代への推進、 育成をめざす
会期・H 28・3・19 (土) ~ 20 (日)	会期・H 28・3・19 (土) ~ 20 (日)
会場・京都国際交流会館1階会議室 (1頁関連記事参照)	会場・京都国際交流会館1階会議室 (1頁関連記事参照)
◆第3回文化講演会 芸能フォーラム 『伝統芸能の過去・現在・未来』	◆第3回文化講演会 芸能フォーラム 『伝統芸能の過去・現在・未来』
日時・H 28・6・4 (土)	日時・H 28・6・4 (土)
会場・東山高台寺方丈の間 (2頁関連記事参照)	会場・東山高台寺方丈の間 (2頁関連記事参照)

お知らせ

◆日吉町小学生・お三味線教室 (夏休み授業) 「郡上八幡をどり」参加 日時・H 28・8・7 (日)
◆片山雅美展——人・陶——時 日時・H 28・4・20 (水) ~ 5・8 (日)
会場・ギヤラリーかもがわ 会場・虎屋 京都ギヤラリー
◆山田豊子(三代染全)乾漆展 ——時の煌めき—— 日時・H 28・5・26 (木)
◆「2016世界禁煙デーin京都」 日時・H 28・6・4 (土)
会場・鷺峰山高台寺 ◆片山雅美 陶展 (書と花) 日時・H 28・6・20 (月) ~ 26 (日)
会場・提側庵 ◆村田好謙(彼方の光—漆の世界) 日時・H 28・6・22 (水) ~ 28 (火)
会場・高島屋京都店6階美術画廊 ◆伊砂正幸「博」展 日時・H 28・6・28 (火) ~ 7・3 (日)
会場・京都府立文化芸術会館 ◆常磐津都史浴衣会 長谷川裕子・杉本裕美子出演「雷船頭」 日時・H 28・7・3 (日)
会場・祇園西石垣(ちもと) ◆チャリティ事業舞踊公演(邦楽名流会) 日時・H 28・9・22 (木・祝)
会場・先斗町歌舞練場 ◆林宗一郎のお誂と仕舞教室のご案内 【体験事業】 会場・東山総合庁舎 日時・H 29・3・25 (土) ~ 26 (日)
会場・稽古場・松響閣 〒606-8414 京都市左京区浄土寺真如町24-22 お問い合わせ・林宗一郎能の会事務局 日時・未定 場所・未定

編集後記

◆今年の事業の高台寺での伝統芸能フオーラムは大成功に終わりました。

とりわけ場所が高台寺という名刹であつたことと外国人や観光客も思いもかけない日本の伝統文化を生で鑑賞できて喜んでくださったことと思います。

京都の三大祭りの一つ祇園祭が今年は日曜日ということもあって例年以上の人出で賑わいました。素晴らしい日本の伝統行事に酔う暑い夏の一日でした。大切に守り、伝承していくことは一人ひとりの心だと思います。

◆コンチキチンの祇園囃子が京の街に流れ、十六日の宵山。十七日の前祭の山鉾の巡行とピークを迎えます。疫病退散を祈願してはじめたとされるこの祭が世界の美術工芸品を懸装品として飾り「動く美術工芸館」といわれる京の町人の「心と技」に驚嘆感服。檜の会も伝統芸能、美術工芸の心や技術を守り次世代に継ぐ活動に邁進。皆様のご教導とお力を仰いで参りたく存じます。この機関誌もその一助として皆様の貴重なご意見を頂戴致したくお待ちしております。(田中)

◆他所からお見えになつた方は京都の夏の暑さに驚かれます。今年もその季節がやってきました。それでも京都には他では味わえない事や物が沢山あります。祇園祭、賀茂の御手洗祭、鰐の落とし、町屋の造り等々。それらのことを大切にして暮らしに根付かせてきた先人の知恵をこれからも受け継いでいきたいのです。

当会がそのようなことを大事にしております。

(中田)

◆林宗一郎のお誂と仕舞教室のご案内
【体験事業】
会場・東山総合庁舎
日時・H 29・3・25 (土) ~ 26 (日)

◆常磐津都史浴衣会
長谷川裕子・杉本裕美子出演「雷船頭」
日時・H 28・7・3 (日)

会場・祇園西石垣(ちもと)
◆チャリティ事業舞踊公演(邦楽名流会)
日時・H 28・9・22 (木・祝)

会場・先斗町歌舞練場
◆林宗一郎のお誂と仕舞教室のご案内
【体験事業】
会場・東山総合庁舎
日時・未定
場所・未定

—NPO法人「檜の会」入会のご案内—

「檜の会」は日本の伝統芸能を守り楽しむ会として発足、日本の伝統芸能文化(古典芸能・民族音楽・美術工芸・文学など)を各分野の専門家から学び、新しい文化や芸能の息吹を京都から世界に発信できれば素晴らしいことだと思って活動を続けています。

【入会金及び会費】

正会員(入会金) (個人)	(年会費) 2,000円	賛助会員(入会金) (年会費) (団体)	1,000円 5,000円(1口)	学生会員(入会金) (年会費) 免除	2,000円 10,000円(1口)

【会員の特典】

伝統文化芸術・芸能の研修会や、ホールや劇場での鑑賞会にご招待またはご優待。
「檜の会」会報誌の無料送付。